

関西理学療法学会 一日研修会 デイセミナー第5講

『生活関連動作の動作分析の工夫』

医療法人社団石鎚会

石濱崇史

高崎浩壽

林 哲弘

理学療法士は、主としてその基本的動作能力の回復を目的として業務に従事するものとされている。しかしながら、基本動作のみにアプローチしてばかりでは、在宅後の生活を考えているのかと誹りを免れない。応用動作の動作分析をしていくうえでは、動作遂行に必要な構成要素である基本動作を抽出、かつ細分化したなかで問題点を見つけ出していくことは言うまでもないだろう。この細分化した運動の特徴をどのように捉えるかによって、本質的な問題点の解決につながると考える。

今回、我々は座位における下肢、骨盤帯、体幹の連動した運動と様々な動作のシチュエーションにつながる「ある運動」の謎を解明していきたいと考える。それは、ニッチでありながらも生活のなかでは切り離せない動作であり、アラインメント変化や筋電図学的検討から解析をすすめ、動作分析の理解となる工夫に繋げていきたい。